

+ 5 4 【がんぶつ】

「【がんぶつ】というおぼけはしていますか」

何のまえぶれもなく懐爺がききました。

「しらいでか。といたいたが、しらん」

ぼくは正直にこたえました。

「それなら金ちゃんだけには、しっておいてほしいのですが、この【がんぶつ】というおぼけほど、困ったものはありません」

「なぜじゃ」

「なぜなら、ほんとうはおぼけではないからです」

「おぼけじゃねえ、おぼけかのう」

興味がわきました。

「つまり、人間のほうが、いわば妄想（もうそう）で、おぼけではないものが、おぼけに見えてしまうんですね」

「なるほどのう」

「人間には、心の病がいっぱいあります。適応障害（てきおうしょうがい）、発達障害（はったつしょうがい）、強迫性障害（きょうはくせいしょうがい）、統合失調症（とうごうしっちょうしょう）、鬱病（うつびょう）、薬物中毒（やくぶつちゅうどく）、酒類中毒（さけるいちゅうどく）、拘禁反応（こうきんはんのう）、洗脳（せんのう）、被害妄想（ひがいもうそう）、虚言症（きよげんしょう）などなどです」

「ぜんぶ、しらんが、きよげんしょうたあ、うそつきのことか」

「はい、まあ」

「だば、わしもこころのやまいじゃのう」

「いえ、金ちゃんの場合は、ほんとうのことをいっても、その話が現実離れしていますから、うそつきだとおもわれてしまうだけです」

「ならば、もんだいなしかのう」

ぼくはなんとなくつまらなくおもわれました。

「問題ある人間が、年々ふえています。人間を見ても、動物を見ても、物を見ても、おぼけに見える。音がしても風が吹いても、おぼけかとおもう」

「やっぱりわしは、こころのやまいじゃのう」

「金ちゃんの場合は、おばけに見えるというよりも、おばけにしたがるというほうが正解ではないでしょうか」

「おばけにしたがるのは、かいじいのほうじゃ。わしは、かいじいのいうことを、しんじとるだけじゃ」

「わたしは【がんぶつ】をおばけだなんていいませんよ。【がんぶつ】はおばけではないのですから」

「わしはそうはおもわん。【がんぶつ】も、こころのやまいのにんげんには、おばけなんじゃろ。ならばそれは、やっぱりおばけなんじゃ」

「金ちゃんは、精神病の人たちに好意的ですねえ」

「からだのびょうきも、こころのびょうきも、なりたくてなるわけではないからう。こどもがいうのはへんかもしれんが、わしだってあしたはわからん」

「おやまあ、ずいぶん殊勝（しゅしょう）ですねえ」

「こころのびょうきのひとは、いろんなおばけをみる。わしはいろんなおばけをみるから、いずれこころのびょうきになるかもしれん」

「お大事に」